

様式第5号

令和3年度 さいたま市立東浦和中学校 学校運営協議会による評価書

さいたま市立 東浦和中学校
学校運営協議会
会長氏名 吉川幸一

学校運営協議会による評価（協議会の委員の意見等）

・社会の縮図が学校であるように、いじめが0になる事は無いと思うが、先生方の真剣な想いや取組みには、本当に感謝の思いである。

今後とも、大きい小さいに限らず、手を差し伸べていただければと切に願う。思春期の一番難しい年頃の子供たちだとは思いますが、望ましい人間関係を形成し、心温かい生徒の育成を学校と家庭で協力して育んでいきたい。

・教育目標に向かって生徒の心と体、また、ICTの活用で個別な学びの実現と学力の向上に向かい、努力していると思う。また、教職員が働きやすく教育環境の整備充実に計らっていることが伺える。

・学校運営協議委員だけでは、学校・地域の協働を進める上で不十分である。学校と地域との交流の機会を別途設ける必要がある。そのためには、地域との交流の場を設ける必要がある。委員はその企画・運営に協力できる。

・アンケートをとって、生徒の実態を把握し、「自己肯定感」を高める取組はよいと思う。推進・向上・育成・充実を具現化する方策や具体的取組みを明確化にするとよい。

・令和4年度「東浦和中学校の生活について」の頭髪の部分において生徒自身に判断させる取組について、生徒自身に判断させることは良い事だと思うが、生徒本人と教師側の落ち着く基準を意思統一させる事が必要になると思う。一度、生徒会で議論してみてもどうか。

学校運営協議会による評価を受けた学校の対応

・学校生活全般においては、生徒が望ましい人間関係を形成し、心温かい環境の中で生活を送れるよう、教職員一丸となって取り組んでいく。

・学習に関しては、「自ら進んで学ぼうとする意欲」が高められるよう、ICTも取り入れながら魅力ある授業の工夫・改善に努めていく。

・今年度に引き続き、生徒、教職員の整合性のあるアンケートを毎学期末に行い、生徒の自己肯定感を高められる指導を検証し、学習面・生活面の随所に取り入れていく。

・コミュニティ・スクールにおいては、今後地域との交流の場を設け、協働していける体制を図っていく。

校長氏名 遠藤浩之